

福山大学 人間文化学部 平成30(2018)年度 自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域：使命・目的、教育目的

2018年度

人間文化学部

| | |
|-------|---|
| 中長期計画 | 学科長会議及び学部将来構想委員会で学科(大学院を含む)の将来構想を検討中であるが、人間文化学部の理念目的が根底から変わることはない。2016年度4月にメディア情報文化学科をメディア・映像学科へと名称変更を行ったが、これは元々メディア情報文化学科の理念目的として設定されていた、映像を含む多様なメディアへの対応という意味で、理念目的の変更ではない。ただし、心理学科においては、国家資格である公認心理師のカリキュラム発表と国家試験の内容を吟味して、学部・学科の理念目的をより細分化して具体化する必要がある。 |
| | |

2018年度

人間文化学部

| | |
|--------------|--|
| 中点検項目 | 1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。 |
| 点検項目 | ① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。 |
| 現状説明 | 人間文化学部は本学唯一の人文系学部として総合大学としての重要な役割を担っており、かつ現代社会の在り方を問う意義はより大きくなっていることから、人間と社会・文化を探求するという学部の理念は適切だと考えられる。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①2018年度学生便覧(人間文化学部規則) |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② 個性・特色を明示していますか。 |
| 現状説明 | 3学科ともに、近隣大学の類似学科との差別化を図るための努力をしている。心理学科は国家資格である公認心理師養成大学とともに従来の臨床心理学に偏らない幅広い分野構成、人間文化学科は英米に限定されない外国文化、メディア・映像学科はフィールドでの映像表現を特色とする。 |
| 年度目標 | 現状維持であるが、心理学科は2018年9月9日の第1回公認心理師国家試験の内容にあわせ、他大学との差別化を検討する。 |
| 年度報告 | 公認心理師の5領域の教員を配置、特に、入学者の志望理由の多い犯罪心理学の教員を1名増員した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①2018人間文化学部人事要望書_心理学科.doc |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

| | |
|--------------|--|
| 点検項目 | ③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。 |
| 現状説明 | 各学科で検証したものを学部将来構想委員会、学部教授会において定期的に検証を行っている。平成27年度人間文化学部外部評価委員会の検討結果を考慮し学部HPで報告書を開している。 |
| 年度目標 | 現状維持とともに、心理学科は2018年9月9日の第1回公認心理師国家試験の実施にあわせて近隣高校や心理職現職者のニーズを把握する。 |
| 年度報告 | 公認心理師の広報に努め、受験者、入学者ともに前年を上回った。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①大学HP「公認心理師カリキュラム読み替えについて」 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

| | |
|--------------|--|
| 中点検項目 | 1-2. 使命・目的および教育目的の反映 |
| 点検項目 | ① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。 |
| 現状説明 | 教育目的と3ポリシーは、2016年度と2017年度（心理学科）の学科の3ポリシー改訂とともに学部教授会で議論して承認している。教育目的と3ポリシーは、学生便覧等の印刷物、HPで参照できる。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学生便覧 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② 学内外へ公表し周知していますか。 |
| 現状説明 | 高校や社会一般に対しては大学要覧やHPにより広く公表している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①大学要覧や学科HP、学科twitter |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ③ 中長期的計画へ反映していますか。 |
| 現状説明 | 各学科で改訂が必要になった内容は、学部将来構想委員会、学部教授会において検証を行って中長期的計画にも反映できるようにしている。 |

| | |
|--------------|--|
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学部教授会議事録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ④ 三つのポリシーへ反映していますか。 |
| 現状説明 | 教育目的と3ポリシーは、2016年度と2017年度(心理学科)の学科の3ポリシー改訂したが、その作業時に各学科長と教務委員とともに参照した。改訂が必要な際には同様の検証を行う。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学部教授会議事録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。 |
| 現状説明 | 学部・学科の使命・目的および教育目的は、現代社会のこころの問題や文化・メディアの状況に適合したものである。また、心理学科では2018年度から始まる公認心理師養成大学として認定されるように組織している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学部教授会議事録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

基準2. 学生**領域：学生の受入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応**

| | |
|-------|---|
| 中長期計画 | 学生の受け入れに関しては、学部教授会で入学定員充足率の80%台の必要性を強調しながら入試広報戦略を立てている。各学科の魅力、卒業後の進路を明確に示し、学科内容と強みである社会貢献について学外及び学内にもわかりやすく広報している。その結果、2018年度入学者数は人間文化学科と心理学科で定員充足、メディア・映像学科も前年度54%から78%にまで回復した。但し、日本高等教育機構の認証評価でメディア・映像学科が改善勧告、人間文化学科が努力要望の記載があったため、入試広報室との連携で一層の学生募集強化と、入学者増につながる人事や設備投資があれば、積極的に予算要求していく。 |
| | 学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応は、全学の方針に従って行っている。人間文化学部の独自性としては、2015年度から学生センター制度を導入して、例年30名以上の学生が参加して仲間同士が助け合う活動を推進している。定員割れの原因の一つは学修環境の問題だと考えられるので、学生が自由に利用できる拠点づくり(ラボラトリ構想)をここ数年間の課題としている。心理学科の29号館への移動とメディア・映像学科の19号館単独使用を機に、施設・設備の整備を進めている。人間文化学科についても魅力的な環境づくりとして人文学生研究室を整備した。特に、メディア・映像学科においては、鞆の浦に拠点型教育・研究施設、さらに、宮地茂記念館の教育研究環境利用を目指す。さらに、心理学科では、2018年開始予定の公認心理師の国家試験に対応できる実習を中心とした施設を23号館に整備している。 |

| | |
|--------------|---|
| 中点検項目 | 2-1. 学生の受入れ |
| 点検項目 | ① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。 |
| 現状説明 | 昨年(心理学科は2017年度)、大学教育センター主導のもとに全学で教育目的と3ポリシーの見直しを行った。学内外には学部HPで公開している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①大学要覧や学部HP |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。 |
| 現状説明 | 昨年、大学教育センター主導のもとに全学で3ポリシーの見直しを行った。心理学科は公認心理師のカリキュラム発表に合わせて2017年度に改訂した。2018年度入学試験手続者は学部定員を上回り成果が現れている。 |
| 年度目標 | 心理学科は公認心理師対応、留年率減少を念頭に検証し、学生募集に活かす。 |
| 年度報告 | 3学科ともに受験者数、入学者数ともに過去最高となった。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |

| | |
|--------------|---|
| 根拠資料 | ①平成31年度福山大学入学手続状況表 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 学部定員超過が定員の1.2倍の180名を越えないように指定校入試入学者の抑制、歩留率等を検証する。 |
| 点検項目 | ③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。 |
| 現状説明 | 平成27年度外部評価の指摘を受けて、各学科の強みを伸ばして広報することで2018年度入学者が増加した。入学時に行う入学者アンケートで増減の分析を行っている。 |
| 年度目標 | 学部独自ではなく入試広報室とIR室と連携して原因分析の精度を高める。 |
| 年度報告 | 入試広報室参事との分析は行ったが、IR室はまだ準備段階であり進んでいない。 |
| 達成度 | B |
| 改善課題 | 手続き率の伸びと辞退率の減少について検証する。 |
| 根拠資料 | ①平成30年入試資料綴り(参事会資料) |
| 次年度の課題と改善の方策 | 入試広報室参事と入学者、辞退者の分析(高校名、地域、試験得点、辞退理由など)を行う。 |
| 点検項目 | ④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。 |
| 現状説明 | 人間文化学科と心理学科は定員確保できたが、メディア・映像学科は前年度から増加したが80%を切っており、指定校(芸術・メディア表現枠)を設けた。メディア・映像学科はこの3年間続けている近隣50校への高校訪問を徹底して学科の教育内容と進路の多様性を広報する。 |
| 年度目標 | 3学科が定員確保できるように学科の強みを活かした教育・社会貢献活動で広報する。 |
| 年度報告 | メディア・映像学科のみ定員を割ったが、目標の80%は達成した。学部定員150名は約1.2倍となった。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①平成31年度福山大学入学手続状況表 |
| 次年度の課題と改善の方策 | メディア・映像学科の広報と心理学科の指定校入学者数の抑制を行う。 |

2018年度

人間文化学部

| | |
|--------------|---|
| 中点検項目 | 2-2. 学修支援 |
| 点検項目 | ① 学修体制の整備のため、どのような教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。 |
| 現状説明 | 全学的な修学支援、生活支援、進路支援の方針に従っている。これらは学生便覧、HP等で学生(留学生を含む)、教職員、社会に公表されている。また、毎年開催される教育懇談会、就職懇談会では学生の保護人に対して、これらの詳細な説明を行っている。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |

| | |
|--------------|--|
| 根拠資料 | ①大学要覧や学部HP ②教育懇談会及び就職懇談会報告書 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。 |
| 現状説明 | 心理学科では大学院生をTAとして雇用して、心理学実験実習、リサーチ実習という進級要件科目の単位取得支援を行っている。 |
| 年度目標 | 現状を維持とともにメディア・映像学科においても定員充足率の向上とともに検討する。 |
| 年度報告 | TAの他に心理学科にSAを用いた。メディア・映像学科はメンター制で実施。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①平成30年度心理学科予算要求 その他の要求書 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

| | |
|--------------|---|
| 中点検項目 | 2-3. キャリア支援 |
| 点検項目 | ① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。 |
| 現状説明 | 就職支援に関しては全学共通のキャリア教育、自分未来創造室、インターンシップなど、充実してきているが、専門職への就職支援や進学支援は担任の教員が個別に指導している。なお、就職課と各学科就職委員は密に連携している。 |
| 年度目標 | 一般職への就職支援のみならず、専門職への就職支援、進学支援を組織的に行える体制を検討する。 |
| 年度報告 | 地域での活動を各学科ともに実施した。インターンシップも活用した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学長室ブログ |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。 |
| 現状説明 | 就職希望者数、就職者数、内定率は大学HPで公開している。また、詳細なデータは就職課で入手可能であるが学修成果との関連などの分析は行っていない。 |
| 年度目標 | 学修成果との関連、就職満足度などの資料を収集して検証していく。 |
| 年度報告 | 卒業生の進路について把握しているが、学修成果と就職満足度との関係は分析していない。 |
| 達成度 | B |
| 改善課題 | 学修成果と就職満足度との関係の分析を検討する。 |

| | |
|--------------|---|
| 根拠資料 | ①平成30年度福山大学学科別進路状況 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 就職委員と就職課と連携して学修成果と就職満足度との関係の分析を検討する。 |
| 点検項目 | ③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。 |
| 現状説明 | 資格取得に関しては大学からの受験料の一部補助、大学教育センターの資格教育部門を整備している。インターンシップに関しては、公務員関係は教務課、企業は自分未来創造室が「BINGO OPEN インターンシップ」で支援している。 |
| 年度目標 | サポート体制を強化して受験者数と合格率の向上を図る。 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①大学HP資格取得 http://www.fukuyama-u.ac.jp/concept/qualify/entry-3130.html |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。 |
| 現状説明 | 各学科の就職委員と就職課との情報交換は綿密に行われ相互に協力的であることから指導は適切だと考えられる。また、地元優良企業、大手企業の内定者も多く、内定率も高い率で推移している。 |
| 年度目標 | 就職活動を早期化して内定時期を早めること、実就職率を90%台にすることを目指す。 |
| 年度報告 | メディア・映像学科は早期に100%決定、学部の実就職率は90% (85名中77名; 90.6%) を超えた。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①平成30年度福山大学学科別進路状況 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

| | |
|--------------|--|
| 中点検項目 | 2-4. 学生サービス |
| 点検項目 | ① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。 |
| 現状説明 | 福山大学独自の奨学生制度の他、日本学生支援機構、地方自治体(府県市町村)や財団・企業による奨学金制度もあり、年度はじめのガイダンスでも周知している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状通り実施した。学生には年度初めのオリエンテーションで周知している。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①教育懇談会資料 ②オリエンテーション資料 |

| | |
|--------------|--|
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。 |
| 現状説明 | 担任による個別面談の他、学部にハラスメント相談員を3名置いて相談を受けている。ハラスメント相談員については年度はじめのガイダンスで周知している。また、学部教授会でも教員へハラスメント防止について指示している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 年度初めのガイダンスで周知した。相談員や担任が年2回の面接も実施した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①ガイダンス資料 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。 |
| 現状説明 | 新入生ガイダンス時に課外活動のメリットを話し、留学や社会貢献活動はリーフレットやメールで情報を発信している。成果が得られた場合は学長室ブログや学科ブログで紹介するほか、学長賞への推薦も行っている。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 社会貢献活動は3学科ともに活発であり、学長室及び学科ブログとSNS等で紹介した。新聞・テレビにも登場した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学長室ブログ ②学科ブログ ③学科SNS |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

| | |
|-------|--|
| 中点検項目 | 2-5. 学修環境の整備 |
| 点検項目 | ① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。 |
| 現状説明 | 全学的には長期ビジョン委員会の施設・設備部会、研究費等については学部長会で方針が決められている。学部としては毎年の予算申請において、学科会議で要望を聞き取り、学科長会議で調整を行っている。 |
| 年度目標 | 現状を維持とともに公認心理師対応のためにこころの健康相談センターの整備を進める。 |
| 年度報告 | こころの健康相談センターの改修工事を平成31年2月から本格実施した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①心理学科会議議事録 |

| | |
|--------------|---|
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。 |
| 現状説明 | 3学科ともにICT教室CLAFT、図書館を授業で利用している。心理学科は実習・実験施設で心理学実験実習(2年次)、心理学課題実習(3年次)、卒論に取り組んでいる。メディア・映像学科は1年次からBYODで本学及び宮地茂記念館を活用している。 |
| 年度目標 | 現状を維持とともに公認心理師対応のためにこころの健康相談センターの整備を進める。 |
| 年度報告 | CLAFT、図書館ラーニングコモンズ、宮地茂記念館で授業を実施した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①「教務の手引き」時間割表の教室欄 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。 |
| 現状説明 | バリアフリーとアメニティースペースの確保は、予算要求時に各学科で申請している。また、学生の要望も聞き取り、学生自治で利用方法を決めて活動させている。 |
| 年度目標 | 23号館のこころの健康相談センターの整備にバリアフリー化を取り入れる。 |
| 年度報告 | センターの入り口にスロープ、トイレも障害者対応ユニバーサルトイレを設置した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①こころの健康相談センター改修設計図 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。 |
| 現状説明 | 心理学科の29号館移転及びメディア・映像学科の宮地茂記念館での授業など広さと数は適切である。また、ICT教室CLAFT、アクティブラーニング教室 GLLASS & MILES も整備され活用している。 |
| 年度目標 | 現状を維持とともに心理学科は3年連続定員超過のために必要となる設備があれば対応する。 |
| 年度報告 | 講義用教室以外の利用を3学科ともに行った。心理学科は29号館にPC62台を整備して対応した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①平成30年度予算要求書(心理学科) |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

| | |
|--------------|--|
| 点検項目 | ⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。 |
| 現状説明 | 学生の安全衛生規程・委員会規程が施行され、福山大学安全管理の手引きが作成された。また、福山大学 人間文化学部 大学生生活における安心安全マニュアルを作成し学生に配布した。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 安全管理のマニュアルによる整備点検を行った。大雨豪雨災害時にも問題はなかった。自然災害対応マニュアルも教員へ配布した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①福山大学安全管理の手引き |
| 次年度の課題と改善の方策 | 危機管理基本マニュアル、自然災害対応マニュアルによる研修を行う。 |
| 点検項目 | ⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。 |
| 現状説明 | 学生の安全衛生規程・委員会規程が施行され、福山大学安全管理の手引きが作成された。この手引きの中に劇物・危険物に関する管理システムについても記載がされている。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 3月に危機管理基本マニュアルが新たに作成されて配布された。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①危機管理基本マニュアル ②自然災害対応マニュアル |
| 次年度の課題と改善の方策 | 危機管理基本マニュアル、自然災害対応マニュアルによる研修を行う。 |
| 点検項目 | ⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。 |
| 現状説明 | 学生の安全衛生規程・委員会規程が施行され、福山大学安全管理の手引きが作成された。また、福山大学 人間文化学部 大学生生活における安心安全マニュアルを作成し学生に配布した。防災訓練を2017年の大学祭で実施、災害時一時避難場所についてもHP掲載している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 危機管理基本マニュアル、自然災害対応マニュアルが整備され、安否確認システムによる訓練を実施した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | 安否確認システムの応答率を100%にする必要がある。 |
| 根拠資料 | ①Cerezo内の安否確認システム |
| 次年度の課題と改善の方策 | 危機管理基本マニュアル、自然災害対応マニュアルによる研修を行い、安否確認システムの100%回答を目指す。 |

| 中点検項目 2-6. 学生の意見・要望への対応 | |
|--------------------------------|---|
| 点検項目 | ① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。 |
| 現状説明 | 平成22年度より大学教育センターに学修支援室を設けて、学生の基礎力向上支援とともに学修支援に関する相談にも応じている。また、各学科では担任による個別面談を通して把握している。問題点がある場合には学科会議、学部教授会で対応している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 個別面談を2回以上実施して、問題がある場合には学科意義で共有し、学修支援室(時間割を掲示)を紹介した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | 学修支援室の利用を増やす必要がある。 |
| 根拠資料 | ①学科会議議事録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 学修支援室の利用の他に、メンター制度などの学生同士の支援も必要である。 |
| 点検項目 | ② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。 |
| 現状説明 | 担任の学生とは定期的に面談を行い、心身の健康についても確認している。定期健康診断の受診と、心理面での問題がある場合には保健管理センターを勧めている。また、日々のゼミ活動などでも気になる学生がいれば相談にのるという体制はできている。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 保健管理センターの利用率は、在籍者との比率で5学部中第1位であった。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①第12回評議会 資料9 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。 |
| 現状説明 | 平成22年度より大学教育センターに学修支援室を設けて、学生の基礎力向上支援とともに学修支援に関する相談にも応じている。また、各学科では担任による個別面談を通して把握している。問題点がある場合には学科会議、学部教授会で対応している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 学生の意見から教室のAV機器の不調について修理等を行った。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①Zelkovaの面談記録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

基準3. 教育課程**領域：卒業認定、教育課程、学修成果**

2018年度

人間文化学部

| | |
|-------|---|
| 中長期計画 | 学部の将来構想に合わせて教育課程・教育内容を見直す。特に、学部内他学科専門科目16単位と他学部の自由聴講科目10単位、合計26単位の卒業単位数合算の適切性を検討する。また、教職課程は再課程認定に際して、人間文化学部の「英語」、心理学科の「公民」を申請しないこととして、人間文化学部は「国語」「地理・歴史」の教職に重点を置き、心理学科では公認心理師へ重点を移した。その結果、心理学科は公認心理師カリキュラムとの関係で教育課程・教育内容を見直し、教育目的及び3ポリシーの変更、科目名の変更と必要な科目的追加を2018年度入学生から適用するようにした。メディア・映像学科は2016年度に名称変更したため、現在の教育課程・教育内容を維持して学修成果を上げる。なお、福山大学研究プランディング事業に関し、人間文化学部は「鞆の浦学」の構築に向けて教育内容を検討する。 |
| | 2018年度 |

| | |
|--------------|--|
| 中点検項目 | 3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定 |
| 点検項目 | ① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。 |
| 現状説明 | ディプロマ・ポリシーはHP、単位数に関しては学生便覧に明記、Zelkova上でも取得単位は把握可能である。卒業研究・論文は、人間文化学部規則第6条・第7条に大まかに規定されているのみで、成績判定と口頭試験の判定基準は学科での運用に任せている。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学生便覧 ②学部学科HP |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。 |
| 現状説明 | 大学教育センターの指導の下に学部教授会で承認し、評議会で審議している。単位認定基準は各教員で実施している。進級基準は学生便覧に記載があり、進級に関しては、全学の方針に基づき、総単位数と進級要件必修科目で学科会議、学部教授会、全学教授会で審議している。各学年で望ましい単位数が設けてあり、学生便覧やホームページにより学内外へ周知している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学生便覧 ②学部学科HP |

| | |
|--------------|---|
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。 |
| 現状説明 | 大学教育センターの指導の下に学部教授会で承認し、評議会で審議している。単位認定基準は各教員で実施している。進級基準は学生便覧に記載があり、進級に関しては、全学の方針に基づき、総単位数と進級要件必修科目で学科会議、学部教授会、全学教授会で審議している。各学年で望ましい単位数が設けてあり、学生便覧により学内外へ周知している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学生便覧 ②学部学科HP ③全学教授会議事録 ④人間文化学部教授会議事録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

| | |
|--------------|---|
| 中点検項目 | 3-2. 教育課程及び教授方法 |
| 点検項目 | ① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。 |
| 現状説明 | 3学科、研究科とも、教育目標・学位授与方針に即応したカリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップを策定している。学内外には学生便覧、大学案内、HPで公開している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学生便覧 ②学部学科HP |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。 |
| 現状説明 | 2016年度、大学教育センター主導のもとに全学で3ポリシーの見直しを行い、学部・学科でも整合性を含めて改訂し、評議会で承認の受けている。したがって、両ポリシー間に一貫性が認められる。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |

| | |
|--------------|---|
| 根拠資料 | ①学生便覧 ②学部学科HP |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。 |
| 現状説明 | 3学科、研究科とも、教育目標・学位授与方針に即応したカリキュラム・ポリシーとカリキュラムマップを策定している。また、科目ナンバー制も導入しより体系的に編成した。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学生便覧 ②学部学科HP |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。 |
| 現状説明 | 本学の教育目標を具現化する構成になっていると考えられる。毎年の学部・学科のカリキュラムを検討する際に合わせて教養教育の見直しも行っている。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学生便覧 ②学部学科HP |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。 |
| 現状説明 | ICT教育、アクティブラーニングの導入に関し全学及び学部FDを参考に実施している。メディア・映像学科は2015年度からPC必携化を全学に先駆けて実施して、宮地茂記念館を利用したフィールドワーク、授業における映像制作などに効果的に活用している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持するとともに、メディア・映像学科では本学と宮地茂記念館・安田教授留学先との遠隔授業を行った。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学生便覧 ②学部学科HP |

| | |
|--------------|--|
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ⑥ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。 |
| 現状説明 | ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準（ループリック等の評価指標を含む）等の策定を行っている。かつ、卒業判定に関しては、ディプロマ・ポリシーに基づくループリック評価を行って整合性を担保している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学生便覧 ②学部学科HP |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

| | |
|--------------|---|
| 中点検項目 | 3-3. 学修成果の点検・評価 |
| 点検項目 | ①全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。 |
| 現状説明 | 2016年度の学部FDは、学修成果の評価方法をテーマに掲げており、その意義は学部教員に認識されている。また、学修の成果は授業評価アンケートで把握している。しかし、すべての科目のアセスメントポリシー策定や評価の実施方法はこれから重要な課題となっている。 |
| 年度目標 | 大学教育センターの主導のもと学修成果の点検・評価方法の確立とその運用を検証していくことを検討する。 |
| 年度報告 | 第7回評議会で福山大学アセスメントポリシーが承認された。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①平成30年度第7回評議会 資料第5号 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ②教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。 |
| 現状説明 | 大教センターのアンケート結果を個々の教員が受け取り、教育の改善に役立てている。また、学科長が学科全体の総括を行い、大学HPに公開している。問題がある場合は学科長が対応するが、学部として問題点を共有して改善策を検討するところまでには至っていない。 |
| 年度目標 | 種々のアンケート結果を学部教授会ないし学部FDでとりあげて話しあう。なお、アンケートの回答率の向上に協力する。 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |

| | |
|--------------|----------------------|
| 根拠資料 | ①学生による授業評価アンケート実施報告書 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

基準4. 教員・職員**領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援**

2018年度

人間文化学部

| | |
|-------|---|
| 中長期計画 | 学部長、学部長補佐、学科長による学科長会議を中心に学部内のマネジメントを実施している。総合大学としての福山大学の一翼を担う人文系の学部として、将来にわたりその役割を果たせるよう、それにふさわしい人员の配置に努力する。メディア・映像学科への名称変更にふさわしい教育内容を検討する。人間文化学科は資格に重点を置いた教育の質保証をめざす。心理学科は2018年度から始まる、国家資格となる公認心理師の養成大学の要件を満たすように教育研究の充実を図る。これらを通して、学部・学科の定員充足に努める。また、設置基準上の人員を確保した上で、各分野で過不足のない人员配置をめざす。とくにメディア・映像学科は映像表現分野のスタッフを少なくとも現状維持する必要がある。人間文化学科は教員免許などの資格に重点を置いた教育が展開できるような教員の配置を維持する。なお、教員の資質向上のために各種研修会への参加奨励、科研費を含めた外部資金獲得による研修推進、海外及び国内の研究機関での長期留学を継続的に実施している。 |
| | |

2018年度

人間文化学部

| | |
|--------------|---|
| 中点検項目 | 4-1. 教学マネジメントの機能性 |
| 点検項目 | ① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネージメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。 |
| 現状説明 | 学校教育法の改正に伴い、学長のリーダーシップが最大限発揮できる組織改編が行われたため、その中で人間文化学部として学部長・学科長が、学長ガバナンスの下に大学の管理運営を遂行するための貢献する意識を持って遂行している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①評議会議事録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。 |
| 現状説明 | 人間文化学部として学部長・学科長が、学長ガバナンスの下に大学の管理運営を遂行するための貢献する意識を持って遂行している。また、必要性があるときには将来構想委員会で審議して対応している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |

| | |
|--------------|--|
| 根拠資料 | ①学部教授会議事録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。 |
| 現状説明 | 各教員・職員の職位などに基づき全学委員、学部委員に配置し、かつ、委員会等を通じて関連の職員との連携性を高め、機能性も高めている。職員の業務上の役割の明確化などについて記述。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学部教授会議事録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

| 中点検項目 | 4-2. 教員の配置・職能開発等 |
|--------------|--|
| 点検項目 | ① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。 |
| 現状説明 | 全学の教員人事手続きに則り、教育目的及び教育課程に即した教員を選考して教授会、評議会で承認を得ている。教員の構成に関しては、年齢、性別ともに運営と継続性を担保できる陣容になっている。職階については設置基準を満たすように昇任を促進するように配慮して指導している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 2名の昇任人事を要望し認められた。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①第12回評議会議事録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。 |
| 現状説明 | 評議会で大学設置基準と現在の配置の表が配付され全学的に確認している。心理学科の公認心理師養成大学としての教員数も確保できている。 |
| 年度目標 | 心理学科の定年退職者1名の後任人事を心理学科の教育目的と公認心理師の指導内容の充実の観点から実施する。 |
| 年度報告 | 心理学科で他大学等への異動で2名の退職者がいたが、人事要望書を提出し認められ新任教員採用となった。 |
| 達成度 | S |

| | |
|--------------|---|
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①2019年度採用人事計画 ②評議会議事録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。 |
| 現状説明 | 学部内にFderを2名任命して、当該年度において重要なFDを実施している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 学部教授会後に2回実施した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学部教授会議事録 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

| 中点検項目 | 4-3. 職員の研修 |
|--------------|--|
| 点検項目 | ① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。 |
| 現状説明 | 大学で実施されるFDへの参加、学部FDへの学部事務職員の参加を求めていた。また、ICT講習会、学内研究会にも学部教授会でアナウンスして積極的参加を求めていた。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 大学教育センター主催のSD研修に参加した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①大学教育センター報告書 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。 |
| 現状説明 | 全学委員としてICT関係委員を各学科から選出している。また、PC必携化を全学に先駆けて取り入れてICT活用の推進役となっている。なお、2017年度にはICTに関する学部FDも実施した。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 学内ポータルシステムの利用、メールのOffice365への統合など進めている。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | 電子決裁のシステムを構築する必要がある。 |
| 根拠資料 | ①共同利用センターICT活用部門HP |

| | |
|--------------|--|
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 2018年度 | 人間文化学部 |
| 中点検項目 | 4-4. 研究支援 |
| 点検項目 | ① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。 |
| 現状説明 | 研究室は確保されているが、研究専念時間は校務が多く確保できない教員もでてきている。個人研究費はランクがあり格差がある。ランクアップには科研費等外部資金の申請と採択が必要条件であるため、学部内に外部資金獲得推進委員会委員を配置して支援している。 |
| 年度目標 | 職務の効率化を図り研究時間の確保を目指す。 |
| 年度報告 | 委員会等の仕事の軽減はまだ進んでいない。メディア・映像学科の安田教授が1年間の留学中である。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | 委員会、書類、決裁の簡略化を進める。 |
| 根拠資料 | ①評議会議事録 ②学長室ブログ |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。 |
| 現状説明 | 学術研究倫理審査委員会と小委員会であるヒト倫理審査委員会及びそれらの規程がある。そして、2016年度、学部教職員と学生全員に研究倫理教育を実施した。2017年度からは、新任教職員、新入生にガイダンスで実施する。科研費の運用に関し、コンプライアンス推進責任者モニタリング実施要項を定め実施している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①不正防止委員会への報告書 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。 |
| 現状説明 | 過去5年間の研究実績に基づく新制を個人事に実施、学部長と学長が個人研究費と学会旅費の査定を行い、規定に基づき配分している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①専任教員における年度実績および年度実施目標 |

| | |
|--------------|---|
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか |
| 現状説明 | 2015年2月に改訂された「福山大学『研究費ガイドブック』」をもとにコンプライアンス研修会が開催され、周知がはかられた。その後もコンプライアンス推進責任者である学部長が毎年1回研修を実施している。なお、審査機関として「不正防止計画推進室」がある。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①不正防止委員会への報告書 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

基準6. 内部質保証**領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル**

2018年度

人間文化学部

| | |
|-------|--|
| 中長期計画 | 人間文化学部自己点検評価委員会を中心に、学部として主体的に活動を行えるような体制を構築する。人間文化学部は収容定員・入学定員が大きく落ち込んでいることから、教育研究活動や学生支援活動以外に学生募集に関してのPDCAサイクルを重視する必要がある。2015年度に外部評価を受けた結果、その報告書をHPで公表して、高い評価を受けた社会貢献は継続強化し、2019年度には私立大学研究プランディング事業に申請する予定である。将来構想委員会、学科長会議で学生募集に繋がる魅力的な教育・研究・社会貢献活動を推進している。幸い、2017年度の学部全体の入学定員充足率は86.7%と向上したので、3年間で入学定員充足率を100%にすることを目指す。また、2015年度の外部評価委員の指摘では、学生受け入れに大きな問題はあるが、その問題を解決するために、教育の手厚さ、新たな国際交流、そして、地元から評価の高い社会貢献をより進め、戦略的に情報発信するように指導があった。学部教授会でもこのことを確認して、全教員が団結して教育研究の質を向上させることを目指すこととした。その方法として、科研費等への応募と採択を増やすこと、在外研究を計画的に割り当てること、海外の研究者を受け入れることで質の向上を保証していく。 |
|-------|--|

2018年度

人間文化学部

| | |
|-------|---|
| 中点検項目 | 6-1. 内部質保証の組織体制 |
| 点検項目 | ① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。 |
| 現状説明 | 全学で定められた規則・システムに合わせて学部自己点検評価委員会、外部評価委員会を設置して責任体制を明確にしている。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①平成30年度 福山大学諸委員会構成員名簿 |

| | |
|--------------|---|
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 2018年度 | 人間文化学部 |
| 中点検項目 | 6-2. 内部質保証のための自己点検・評価 |
| 点検項目 | ① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。 |
| 現状説明 | 2014年度に学部自己点検評価委員会が設置され、この委員会を中心に2014年度から自己点検評価を行っている。2016年度からは、自己点検評価のシステムも確立し、学部・学科の課題を検討した。また、外部評価委員の報告書に基づく学部ミニFDも行った。2017年度には日本高等教育機構の認証評価も受け、その結果を共有した。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①認証評価報告書 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。 |
| 現状説明 | 大学教育センター内にIR部門が存在するが、学部学科関係の調査やデータの保管は独自に行っている。授業評価アンケートについては全学的に実施して、各教員が報告書に改善策を記述している。 |
| 年度目標 | 2018年度からIR担当の学長補佐の下、IR室、IR推進委員会が組織されるため、全学的な調査、データの収集に向けて協力する。 |
| 年度報告 | キャビネットKarinによる日常業務のデータの保管体制が整備されたが、分析までは至っていない。 |
| 達成度 | B |
| 改善課題 | IR室の指針の下にデータの収集と分析に協力する。 |
| 根拠資料 | ①IRニュース第1号、第2号 |
| 次年度の課題と改善の方策 | Karinの利用促進を図る。 |
| 2018年度 | 人間文化学部 |
| 中点検項目 | 6-3. 内部質保証の機能性 |
| 点検項目 | ① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。 |
| 現状説明 | 2014年度に学部自己点検評価委員会が設置され、この委員会を中心に2014年度から自己点検評価を行っている。2016年度からは、自己点検評価のシステムも確立し、学部・学科の課題を検討した。また、外部評価委員の報告書に基づく学部ミニFDも行った。2017年度には日本高等教育機構の認証評価も受け、学生受け入れに関し改善勧告(メディア・映像学科)と努力要望(人間文化学部)の指摘があったものについては情報共有し、一層の学生募集に活かすこととした。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |

| | |
|--------------|---|
| 年度報告 | 現状を維持した。また、それを活かして学生募集で学部定員を充足した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①平成31年度福山大学入学手続状況表 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。 |
| 現状説明 | 2015年度に全学FD・SD研修で「科研費コンプライアンス研修」が実施され、誓約書を全員が提出し理解度テストを受けて検証した。また、2016年度以降については、学部教職員と学生全員に研究倫理教育を実施している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①人間文化学部_研究倫理教育実施報告2018 ②コンプライアンス推進責任者モニタリング報告書 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：本学独自基準と点検・評価

2018年度

人間文化学部

| | |
|-------|--|
| 中長期計画 | 福山大学研究推進委員会が組織され、本学のブランディング推進のための研究プロジェクトの目指す方向として「里山・里海の自然の把握」「里山・里海の資源利用と経済循環」「里山・里海の歴史・文化的理解」「里山・里海のひと・まち・くらしの創造」の4つの研究テーマを設定し、2017年度文部科学省私立大学研究ブランディング事業には特に「里海」に焦点を当て申請して採択されている。人間文化学部研究ブランディング委員会は「瀬戸内の里山・里海文化の歴史解明と保存・継承に関する研究」に着手しており、2019年度に文部科学省私立大学研究ブランディング事業に申請する予定で準備を開始している。 |
|-------|--|

2018年度

人間文化学部

| | |
|-------|--|
| 中点検項目 | 7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進 |
| 点検項目 | ① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。 |
| 現状説明 | 2017年5月10日の評議会で配付された「福山大学ブランディング戦略」を学部教授会で報告して周知しているが、学生への周知は部分的でありHPでの参照に留めている。 |
| 年度目標 | 教員には人間文化学部研究ブランディング委員会から具体的な方策を提示し、学生にはブランディング戦略の浸透を図る。 |
| 年度報告 | 教員には学部教授会、全学教授会、全学SDで周知し、学生はメディア・映像学科の鞆の浦学への参加で浸透させている。 |

| | |
|--------------|---|
| 達成度 | B |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①メディア・映像学科ブログ:今年も「鞆の浦 de ART」に参加しています |
| 次年度の課題と改善の方策 | 3学科の学生に周知するとともに「鞆の浦学」構築に向けての活動に参加してもらう。 |
| 点検項目 | ② 福山大学はプランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からプランディングにどのように取組んでいますか。 |
| 現状説明 | 福山大学プランディングとして、備後地域との密な連携のもとに教育・研究活動を進めているが、その中で「学問のみに偏重しない全人教育」も掲げており、人間文化学部は特にこの観点を重視して「鞆の浦学」「備後学」の構築に取り組んでいる。 |
| 年度目標 | 2019年度に文部科学省私立大学研究プランディング事業に申請する準備を進める。 |
| 年度報告 | 私立大学研究プランディング事業の募集は終了したが、大学の支援を受けて「鞆の浦学」を継続することを決定した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①平成31年度予算書 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ③ 福山大学プランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。 |
| 現状説明 | 平成27年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、協定校との交流を深めてグローカルな人材育成に取り組んでいる。 |
| 年度目標 | 現状を維持する |
| 年度報告 | 中国、ブルガリアの協定校との編入学、交換留学生が双方で10名を超えた。学部協定の淡江大学から10名を受け入れた。 |
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①人間文化学部教授会議事録 ②学長室ブログ【人間文化学部】淡江大学の皆さんのが学長室を訪問(2018年7月) |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ④ 福山大学プランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。 |
| 現状説明 | 平成27年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、福山市、広島県との連携事業に関して積極的に教員と学生が協働している。これらの成果は外部自己点検評価、認証評価、学部自己点検評価で検証している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |

| | |
|--------------|--|
| 年度報告 | 現状を維持した。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①福山大学研究プロジェクトフォローシート |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ⑤ 福山大学プランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。 |
| 現状説明 | 人間文化学科は「文化フェスタ」、心理学科は「地域安全マップ」「ひなた教室」、メディア・映像学科は「映画上映会」などを企画・実施して学外での活動を強く奨励している。これらの成果は毎年社会貢献部門で学長賞を受賞することで検証の一部としている。 |
| 年度目標 | 備後インターンシップなど、より積極的に職業を意識したイベントに参加させる。 |
| 年度報告 | 広島県警、岡山県庁、岡山県警に学生が招かれて防犯ボランティアの講師を務めた。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①犯罪心理学研究室HP |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ⑥ 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。 |
| 現状説明 | 平成27年度外部評価でも高く評価された社会貢献について継続発展させるとともに、福山市、広島県との連携事業に関して積極的に教員と学生が協働している。これらの成果は外部自己点検評価、認証評価、学部自己点検評価で検証している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 福山大学研究プロジェクト(鞆の浦学の構築)に採択され、フォローシートの提出で評価を受けた。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | 学部全体の取り組みとして広げる。 |
| 根拠資料 | ①中間報告_福山大学研究プロジェクト_フォローシート人間文化学部 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。 |
| 現状説明 | 人間文化学科は「文化フェスタ」、心理学科は「地域安全マップ」「ひなた教室」、メディア・映像学科は「映画上映会」などを企画・実施して学外での活動を強く奨励している。これらの成果は毎年社会貢献部門で学長賞を受賞することで検証の一部としている。また、学生同士が支え合う「学生サポーター制度」を立ち上げ、紐帶性を高める教育に繋げている。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 映画上映会ではカンヌ映画祭上映の監督を迎える新聞でも報道された。学生サポーターは淡江大学との交流にも参加した。 |

| | |
|--------------|--|
| 達成度 | S |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①学長室ブログ【メディア・映像学科】『寝ても覚めても』上映会盛会のうちに終了！(2019年2月) |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |

2018年度

人間文化学部

| | |
|--------------|--|
| 中点検項目 | 7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト |
| 点検項目 | ❶ 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。 |
| 現状説明 | 人間文化学部研究プランディング委員会は「瀬戸内の里山・里海文化の歴史解明と保存・継承に関する研究」に着手しており、2019年度に文部科学省私立大学研究プランディング事業に申請する予定で準備を開始している。 |
| 年度目標 | 2019年度申請のための全学委員会を立ち上げる。 |
| 年度報告 | 私立大学研究プランディング事業が廃止され、全学の委員会の立上げは行われなかったが、福山大学研究プロジェクトで人間文化学部研究プランディング事業運営委員としては「鞆の浦学」の構築を進めている。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①中間報告_福山大学研究プロジェクト_フォローシート人間文化学部 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ❷ 福山大学プランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。 |
| 現状説明 | 福山大学研究プランディング事業予算を申請して予算化するとともに、科研費、行政や民間の助成金に応募を行う。 |
| 年度目標 | 2019年度予算に要求するとともに、科研費等の外部資金獲得を目指す。 |
| 年度報告 | 学内予算は確保したが、サントリー文化財団に応募したが不採択であった。引き続き、次年度の採択を目指す。 |
| 達成度 | A |
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①中間報告_福山大学研究プロジェクト_フォローシート人間文化学部 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |
| 点検項目 | ❸ 福山大学プランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。 |
| 現状説明 | 関連学会、学内での研究会、大学HPで発表している。 |
| 年度目標 | 現状を維持 |
| 年度報告 | 福山大学研究プロジェクト研究成果発表会で中嶋学科長が発表した。 |
| 達成度 | A |

| | |
|--------------|------------------------|
| 改善課題 | |
| 根拠資料 | ①福山大学研究プロジェクト研究成果発表会資料 |
| 次年度の課題と改善の方策 | 現状を維持 |